

取扱説明書

ポータブルランシーバー 品番 WX-CT200



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（7～8ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。



PGQX2162WA

はじめに

商品概要

本機は、1.9 GHz帯のデジタルワイヤレスインターカムシステム専用のポータブルトランシーバー（以下本機）です。

1.9 GHz帯DECT*準拠方式採用により広いエリアで明瞭な会話ができ、干渉を受けることが少なく安定した通信ができます。

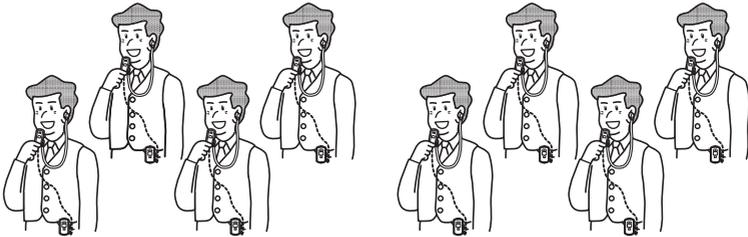
※ DECT (Digital Enhanced Cordless Telecommunications)
：デジタルコードレス電話の通信規格

- 本機には以下の運用形態があります。
 - ・ ストラップ（付属品）で首からぶら下げて、本機の内蔵マイクとイヤホン（付属品）で通話
 - ・ 接話マイクロホン（WX-CM210：別売品）を本機に接続して通話
※ 本機はベルト取付クリップ（付属品）でベルト取り付け
 - ・ ネックセット（WX-C827：別売品）をネックセット用ケーブルキット（WX-CZ002：別売品）で本機に接続して通話
※ 本機はベルト取付クリップ（付属品）でベルト取り付け
- 電源は充電電池パック（WX-SB100：別売品）を使用します。
- 本機を充電器（WX-CZ200：別売品）にセットすることで、本機に内蔵する充電電池パック（WX-SB100）を充電できます。
- グループ運用モードについて
センターユニット（WX-CX200：別売品）に運用支援ソフトをインストールしたパソコンを接続し、運用支援ソフトからグループ運用モードを設定することで、運用形態に合わせてポータブルトランシーバーをグループ分けすることができます。

モード1：グループ分けなし

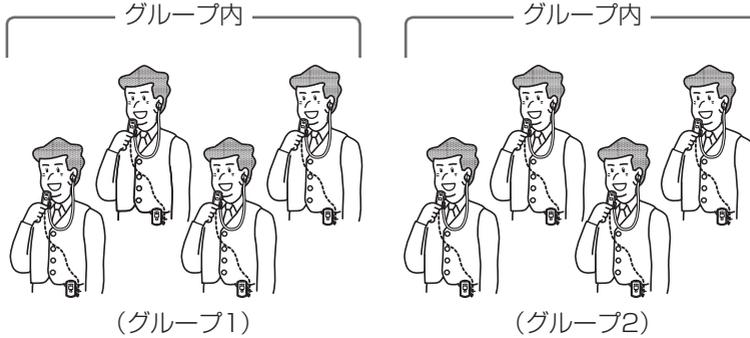
すべてのポータブルトランシーバーをグループ分けしません。

すべてのポータブルトランシーバーと通話します。



モード2：独立グループ

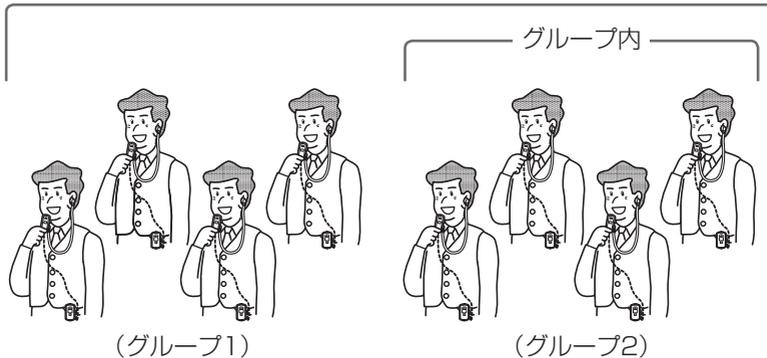
グループを2つに分けて、それぞれのグループごとに通話ができます。また、すべてのポータブルトランシーバーと通話することもできます。



モード3：階層グループ

グループ通話と一斉通話の両方ができるグループ（グループ2）と、一斉通話のみできるグループ（グループ1）にグループ分けします。

例えば、責任者のポータブルトランシーバーをグループ2、従業員のポータブルトランシーバーをグループ1に設定することで、責任者は責任者内に限定したグループ通話と全員と通話する一斉通話ができ、従業員は一斉通話のみの連絡に限定することができます。



はじめに

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）.....	1冊	マグネットクリップホルダー	1個
保証書	1式	取付ねじM3×4 mm（1個は予備）...	2個
ストラップ	1本	イヤホン	1個
マグネットクリップ	1個	イヤチップ（大、中、小）.....	各1個
ベルト取付クリップ	1個	（中はイヤホンに取付済）	
ソフトケース	1個	ウインドスクリーン.....	1個

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ②お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アSEMBル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

略称について

本書では、以下の略称を使用しています。

- センターユニット（WX-CX200：別売品）をセンターユニットと表記しています。
- センターマイクロホン（WX-CM200：別売品）をセンターマイクロホンと表記しています。
- アンテナステーション（WX-CR200：別売品）をアンテナステーションと表記しています。
- ポータブルトランシーバー（WX-CT200）を本機と表記しています。
- 接話マイクロホン（WX-CM210：別売品）を接話マイクロホンと表記しています。
- ネックセット（WX-C827：別売品）をネックセットと表記しています。
- 充電機バック（WX-SB100：別売品）を充電機と表記しています。
- 充電器（WX-CZ200：別売品）を充電器と表記しています。

本文中に記載されている別売品などの情報は、2019年12月現在のものです。最新の情報は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

電波について

- 本機は、1,895.616 ~ 1,902.528 MHzの帯域を使用する、デジタルコードレス電話の無線局の無線設備です。
(一般社団法人 電波産業会 標準規格「ARIB STD-T101」準拠)

- J-DECTロゴは、DECT Forum の商標です。J-DECTのロゴは ARIB STD-T101に準拠した1.9 GHz帯の無線通信方式を採用した機器であることを示しています。同一ロゴを搭載する機器間での接続可否を示すものではありません。

1.9-D

J-DECT

- 本機の使用周波数に関わるご注意

本機の使用周波数帯では、PHSの無線局のほか異なる種類のデジタルコードレス電話の無線局が運用されています。

1. 本機は同一周波数帯を使用する他の無線局と電波干渉が発生しないように考慮されていますが、万一、本機から他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、本機から充電電池を取り外して、お買い上げの販売店にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
2. その他、何かお困りのことが起きたときは、システムお客様ご相談センター（裏表紙）へお問い合わせください。

記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



重要 : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



: 使用上のヒントが書かれています。

もくじ

はじめに

基本操作

その他

はじめに

はじめに	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	4
免責について	4
著作権について	4
略称について	4
電波について	5
記号について	5
安全上のご注意	7
使用上のお願い	9
各部の名前とはたらき	12

基本操作

充電機を入れる	17
装着する	18
本機の内蔵マイクを使用する場合	18
接話マイクロホンを使用する場合	21
ネックセットを使用する場合	23
通話する	25
本機の内蔵マイクを使用して 通話する場合（イヤホン接続時）	25
接話マイクロホンを使用して 通話する場合	26
ネックセットを使用して 通話する場合	27
センターマイクロホンと 個別通話をする	28
音量調節	29
グループ切替	30
トーク A ボタン有効／無効 設定切替	31
充電機の充電	33

その他

故障かな!?	34
ビープ音	36
仕様	37
保証とアフターサービス	38

安全上のご注意

必ずお守りください

はじめに

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



危険

「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



危険



専用充電器を使うこと

発熱・発火・破裂のおそれがあります。



禁止

WX-SB100 は WX-CT200、WX-ST100、WX-ST300 用の 充電式充電電池です。

発熱・発火・破裂の原因となります。

火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしない

発熱・発火・破裂のおそれがあります。

変形やショートさせたり、分解・改造をしない

発熱・発火・破裂のおそれがあります。

充電電池の＋端子をショートさせない

発熱、発火の原因となります。

充電電池に強い衝撃を与えない

ハンマーなどでたたいたり、クギなどを打ち込んだりしないでください。

発火・破裂の原因となります。



分解禁止

充電電池を分解しない

充電電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

警告



異常があるときは、すぐ使用をやめる

煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- 直ちに充電池、充電器を抜いて、販売店にご連絡ください。



禁止

医療機器に近づけない（手術室、集中治療室、CCU 等には持ち込まない）

本機からの電波が医療機器に影響をおよぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

自動ドア、火災報知機等の自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響をおよぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

不安定な場所に置かない

落下などでけがの原因となります。

音量を上げ過ぎない

大きすぎる音量は耳を痛めることがあります。

- 適切な音量に調節してください。

可燃性ガスの雰囲気の中で使用しない

爆発によるけがの原因となります。



分解禁止

分解しない、改造しない

火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

水をかけたり、ぬらしたりしない

火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。

注意



禁止

湿気やほこりの多い場所に設置しない

けがの原因となります。

幼児の手の届く場所に設置しない

けがの原因となります。

使用上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

本機は屋内専用です

屋外での使用はできません。

長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

- パワーアンプ、ビデオモニター、測定器などの発熱の多い機器の上や、夏の閉め切った車の中に放置しないでください。保存はなるべく乾燥したところで行ってください。
- 高精度の調整がしてありますので、強い衝撃を受けたり、床などに落としますと特性が変化することがあります。取り扱いには十分ご注意ください。本機に衝撃などが加わると通話中のポータブルトランシーバー、センターマイクロホン、外部音声出力より衝撃音が発生しますので、衝撃を加えないようにしてください。
- 本機は防滴仕様ではありません。ぬれた手で使用したり、水のかかる場所で使用したりしないでください。
- 本機を分解したり、内部の部品にさわったりしないでください。
- 本機は、回転機、変圧器、自動車のイグニッション雑音の影響を受けにくい場所で使用してください。
- 高所で使用する場合は、取り扱いに十分ご注意ください。落下すると、けがや故障の原因になります。
- 塩害や腐食性ガスが発生する場所で使用しないでください。
- 通話の傍受について
本機は通話にデジタル信号を利用した傍受されにくい商品ですが、電波を使うため、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。
- テレビ・ラジオ・パソコンなどのOA機器の近くで使用しないでください。ノイズ発生の原因になります。
- CSデジタル放送受信機（チューナー、チューナー内蔵のデジタルテレビ、レコーダーなど）の近くで使用しないでください。CSデジタル放送の画像が乱れる原因になります。

充電機について

- 専用の充電機を使用してください。また、充電機の取扱説明書も確認してください。
- 使用温度範囲は、5℃～35℃です。10℃以下になると、使用充電機の寿命が短くなりますので、動作時間を計算する場合にはご配慮ください。
- 本機に入れた充電機は、電源を切った状態でもわずかに消費されています。長期間（2週間以上）使用しないときは充電機を取り出してください。
- 充電機は、日光、火などにより過度の熱にさらされる環境に放置しないでください。

使用上のお願い

- 充電電池の電極や充電電池カバー内の端子は汚れた手で触れないでください。接触不良やノイズの原因となります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよくふいてください。
- 劣化した充電電池、故障した充電電池を使用しないでください。充電電池の液もれ、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池は消耗品です。2年を目安に新しいものと交換してください。

登録について

- 本機を使用するにはあらかじめセンターユニットへの登録が必要です。登録方法はセンターユニットの取扱説明書をお読みください。

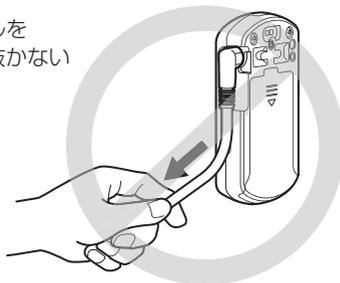
接続ケーブル、イヤホンケーブルについて

- 接続ケーブル、イヤホンケーブルを抜く際は、図のようにプラグの樹脂モールド部を持って、まっすぐ水平に抜いてください。

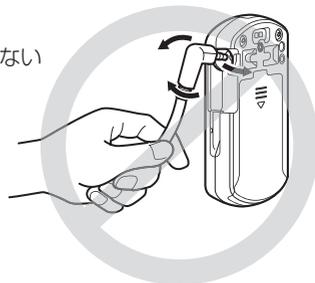


- ケーブルを持って引き抜いたり、プラグ部を斜めの方向に引き抜くなど、無理な抜きかたは絶対におやめください。プラグ部および接続端子部などの故障の原因となります。

ケーブルを
持って抜かない



プラグ部を
斜めに抜かない



- プラグの抜き挿しは本機の電源を「切」にした状態で行ってください。
- 故障や誤動作の原因となりますので、市販のイヤホンやマイクなどのプラグは接続しないでください。

お手入れについて

- 電源を切り乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。
- 充電機の電極や充電機収納部の端子は汚れた手で触れないでください。接触不良やノイズの原因となります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。

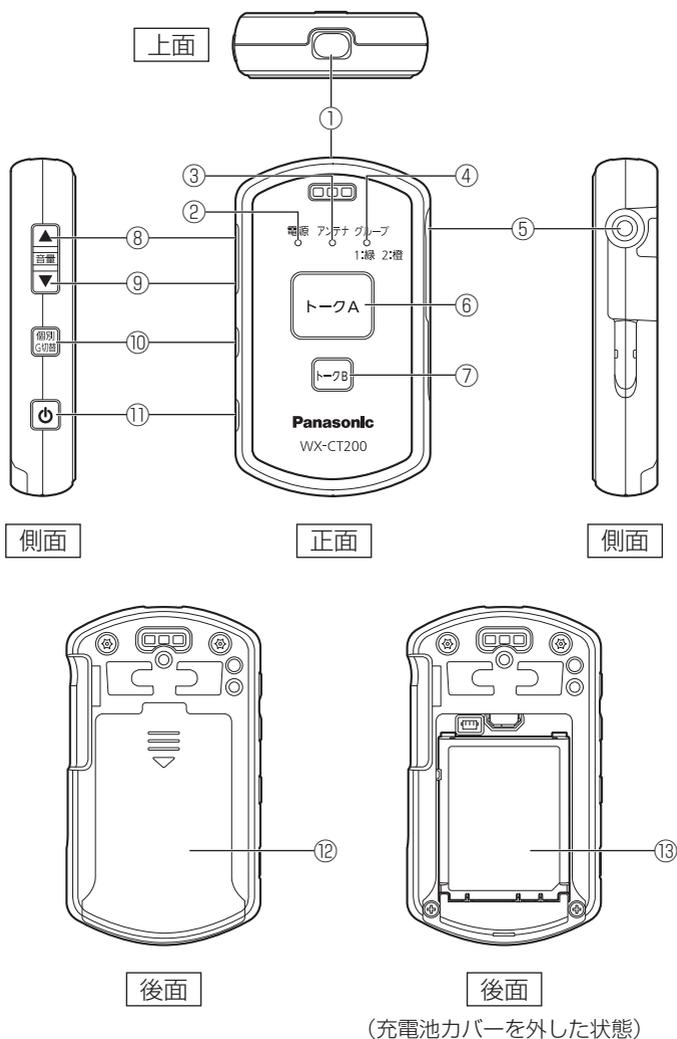
充電機のリサイクルについて

- 不要になった充電機は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池のリサイクルにご協力ください。



Li-ion 00

各部の名前とはたらき



①内蔵マイク

音声をここで集音します。

本マイクは接話用のため、マイクに口を近づけて話してください。(目安は1 cm程度)

②電源表示灯【電源】

本機の電源「入／切」状態、電池残量、充電状態、音量設定値を表示します。

使用中

点灯（緑色）：電源「入」

点灯（橙色）：電源「入」（電池残量は約30%以下で、少なくなっています）

点滅（赤色）：充電電池残量なし（電池残量は約10%以下です。充電してください）

消灯：電源「切」

充電器にセット中

点灯（赤色）：充電中

消灯：充電完了、充電器に正しくセットされていない、または、充電電池が装着されていない

点滅（赤色）：充電エラー

電源「入」の状態です音量ボタン【▲】または音量ボタン【▼】を押した直後

点灯（緑色）：}

点灯（橙色）：}

点灯（赤色）：}

点滅（緑色）：}

受話音量設定値を表示します。

表示灯の仕様は29ページをお読みください。

③アンテナ表示灯【アンテナ】

接続しているアンテナステーションとの電波受信状態を表示します。

点灯（緑色）：強い

点灯（橙色）：弱い

点灯（赤色）：弱い（圏外付近）

消灯：圏外（受信エリア外）

電源「入」の状態です音量ボタン【▲】または音量ボタン【▼】を押した直後

点灯（緑色）：}

点灯（橙色）：}

点灯（赤色）：}

消灯：}

受話音量設定値を表示します。

表示灯の仕様は29ページをお読みください。

電源「入」にした直後／[トークA] ボタン有効／無効設定を切り替えた直後

3回点滅（緑色）：[トークA] ボタン有効設定時

点滅しない：[トークA] ボタン無効設定時

- [トークA] ボタンの有効／無効の切り替え方法については31～32ページをお読みください。

各部の名前とはたらき

④ グループ表示灯 [グループ]

点灯 (緑色) : 待機状態または受話状態、グループ1設定

点灯 (橙色) : 待機状態または受話状態、グループ2設定

点滅 (緑色) : 通話中、グループ1設定またはグループ分けなし設定時

点滅 (橙色) : 通話中、グループ2設定時

通話種別 (一斉通話、グループ通話、個別通話) によって点滅パターンは異なります。

1秒間に1回、0.1秒間点灯 : 一斉通話中

1秒間に2回、0.1秒間点灯 : グループ通話中

1秒間に3回、0.1秒間点灯 : 個別通話中

消灯 : 受話状態、グループ分けなし設定

電源「入」の状態では音量ボタン [▲] または音量ボタン [▼] を押した直後

点灯 (緑色) :

点灯 (橙色) :

点灯 (赤色) :

消灯 :

} 受話音量設定値を表示します。
表示灯の仕様は29ページをお読みください。

電源を「入」にした直後 / [トークA] ボタン有効 / 無効設定を切り替えた直後

3回点滅 (緑色) : [トークA] ボタン有効設定時

点滅しない : [トークA] ボタン無効設定時

- [トークA] ボタンの有効 / 無効の切り替え方法については31~32ページをお読みください。

⑤ イヤホン / 接話マイクロホン接続部

付属のイヤホンまたは接話マイクロホン、ネックセットを接続します。

⑥ トークAボタン [トークA]

- 通話をするときに使用します。

- 本ボタンは本機のイヤホン / 接話マイクロホン接続部に接続されるものによって動作が変わります。

接話マイクロホン接続時 : 本ボタンを使用する (有効)、使用しない (無効) を設定することができます (工場出荷設定は無効)。有効に設定した場合は本ボタンを1秒以上押すと通話可能となり、もう一度1秒以上押すと通話を終了します。(トークロック)

イヤホン接続時 : 本ボタンを押している間通話が可能となります (プレストーク)。本ボタンは有効 / 無効設定によらず常に有効です。

ネックセット接続時 : 本ボタンを1秒以上押すと通話可能となり、もう一度1秒以上押すと通話を終了します (トークロック)。本ボタンは有効 / 無効設定によらず常に有効です。

- [トークA] ボタンの有効 / 無効の切り替え方法については31~32ページをお読みください。

- 運用支援ソフトにて設定されたグループ運用モードにより、「一斉通話ボタン」、「グループ通話ボタン」のどちらかに割り当てられます。

⑦ トークBボタン [トークB]

- 通話をするときに使用します。
- 本ボタンは本機のイヤホン／接話マイクロホン接続部に接続されるものによって動作が変わります。
 - 接話マイクロホン接続時 : 本ボタンを1秒以上押すと通話可能となり、もう一度1秒以上押すと通話を終了します。(トークロック)
 - イヤホン接続時 : 本ボタンを押している間通話が可能となります。(プレストーク)
 - ネックセット接続時 : 本ボタンを1秒以上押すと通話可能となり、もう一度1秒以上押すと通話を終了します。(トークロック)
- 運用支援ソフトにて設定されたグループ運用モードにより、「一斉通話ボタン」、「グループ通話ボタン」のどちらかに割り当てられます。



- [トークB] ボタンは常に有効です。有効／無効の設定はできません。

⑧⑨ 音量ボタン [▲] [▼]

音量を調節します。

[▲] : 音量が上がります。

[▼] : 音量が下がります。

音量ボタンを押し続けることで、連続的に音量を上げ／下げすることもできます。

⑩ 個別／グループ切替ボタン [個別／G切替]

センターマイクロホンに個別通話を要求します。(1秒以上押し) また、本機のグループを切り替えるときに使用します。(グループ運用モードが独立グループの場合のみ)

⑪ 電源ボタン [⏻]

本機の電源を「入／切」します。ボタンは1秒以上押ししてください。

電源が入ると、[電源] 表示灯が点灯します。

⑫ 充電機カバー

充電機カバーの ▽ マーク部を押しながら下に引くとカバーが外れます。

⑬ 充電機収納部 (充電機カバー内)

充電機をセットします。

各部の名前とはたらき

グループ運用モードにより、本機の [トークA] ボタン、[トークB] ボタン、接話マイクロホンの [トーク] ボタンの機能割り付けは自動的に変わります。各ボタンの割り付けは下表のとおりです。

トークボタン機能割当一覧

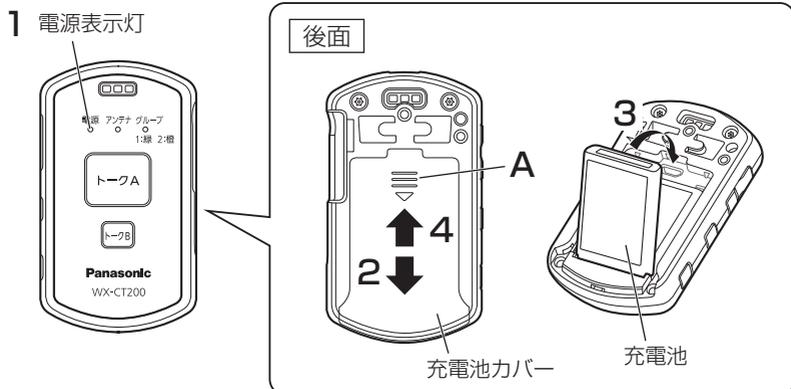
グループ運用モード	所属グループ	本機（ポータブルトランシーバー）		接話マイクロホン
		[トークA] ボタン	[トークB] ボタン	[トーク] ボタン
グループ分けなし	—	一斉通話	未使用	一斉通話
独立グループ	グループ1	グループ1通話	一斉通話	グループ1通話
	グループ2	グループ2通話	一斉通話	グループ2通話
階層グループ	グループ1	一斉通話	未使用	一斉通話
	グループ2	一斉通話	グループ2通話	一斉通話

充電機を入れる

本機の電源が「切」の状態では充電機をセットしてください。



- 充電機の電極は手で触れないでください。接触不良や雑音の原因となります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。



1 [電源] 表示灯が消灯していることを確認する

2 充電機カバーを取り外す

後面の充電機カバーのA部付近を押しながらかい方向へ引いて取り外します。

3 充電機をセットする

充電機の端子の位置を確認して、充電機をセットします。
充電機パック (WX-SB100) 以外の充電機は使用しないでください。

4 充電機カバーを取り付ける

充電機カバーを矢印の方向へ押し上げて、元どおりに取り付けます。

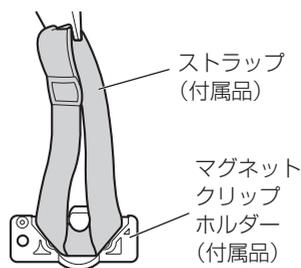
装着する

■ 本機の内蔵マイクを使用する場合

準備

本機に付属のストラップを取り付ける

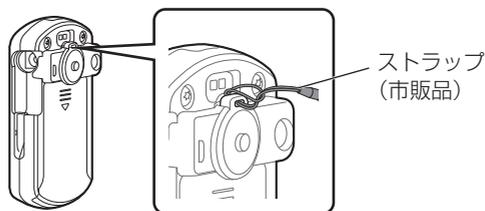
- 付属のストラップと付属のマグネットクリップホルダーを準備し、右図のようにマグネットクリップホルダーにストラップを引っ掛けます。



マグネットクリップホルダーとストラップを一緒に、付属の取付ねじ (M3×4 mm) で右図のように取り付けます。



- ねじを強く締めすぎると、ねじが破損するおそれがあります。
推奨締付トルク：約0.49 N・m {5 kgf・cm}
- マグネットクリップホルダーの取り付けは、必ず付属のねじ (M3×4 mm) を使用してください。
- 市販のストラップを取り付けることもできます。



- 市販のストラップを使用する際は、引っ張ったときに外れる連結構造になっているものをご使用ください。
- 金属性ストラップは使用しないでください。

本機に付属のイヤホンを接続する

- イヤホンのプラグを本機に接続します。



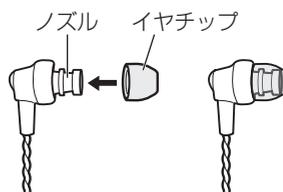
- イヤホンは付属のイヤホンまたはイヤホンキット (WX-CZ001 : 別売品) 以外は使用できません。



- 付属のイヤチップ大／中（取付済）／小より最適なイヤチップを選択しノズルに取り付けます。



- イヤホンのノズルを完全に覆うようにイヤチップを取り付けてください。
- プラグの抜き挿しは、本機の電源が「切」の状態で行ってください。



装着する

装着

ストラップを使用して、本機を首にかけ、イヤホンを耳孔に挿入してください。



- 本機を固定したい場合は、本機のマグネットクリップホルダーに付属のマグネットクリップを取り付けてから、シャツやベストにマグネットクリップで固定してください。



- 必要に応じて、付属のウインドスクリーンを本機に取り付けてください。
(マイクに息が当たることによるノイズが気になるときなど)
本機内蔵マイクの上にウインドスクリーンを載せ、「カチッ」と音がするまで、押し込みます。
- ウインドクリーンを外すときは、ウインドスクリーンのイヤホン／接話マイクロホン接続部側を持ち上げるようにして外してください。

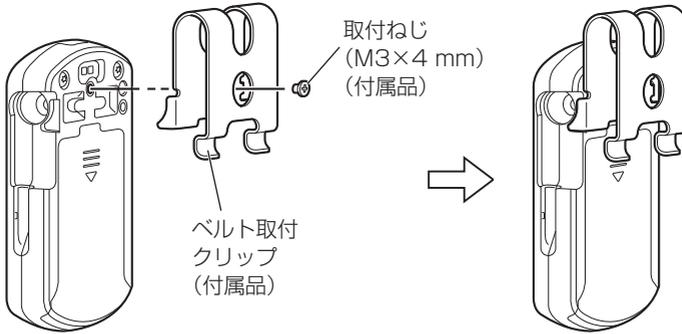


■ 接話マイクロホンを使用する場合

準備

ベルト取付クリップを取り付ける

付属のベルト取付クリップを付属の取付ねじ（M3×4 mm）で取り付けます。



- ねじを強く締めすぎると、ねじが破損するおそれがあります。
推奨締付トルク：約0.49 N・m {5 kgf・cm}
- ベルト取付クリップの取り付けは、必ず付属のねじ（M3×4 mm）を使用してください。

本機に接話マイクロホンを接続する

接話マイクロホンに付属されているトランシーバー接続ケーブルのプラグを本機に接続します。



装着する



- ネックセット用ケーブルキットのケーブルは接話マイクロホンとの接続に使用できません。ご注意ください。
- ネックセット用ケーブルとトランシーバー接続ケーブルはそれぞれのモジュラーコネクターのブッシングの色で識別できます。ネックセット用ケーブルキットは灰色、トランシーバー接続ケーブルは黒色です。



モジュラーコネクタブッシング：黒色

装着

本機に取り付けたベルト取付クリップをベルトなどに差し込みます。
接話マイクロホンを首にさげ、イヤホンを耳孔に挿入します。



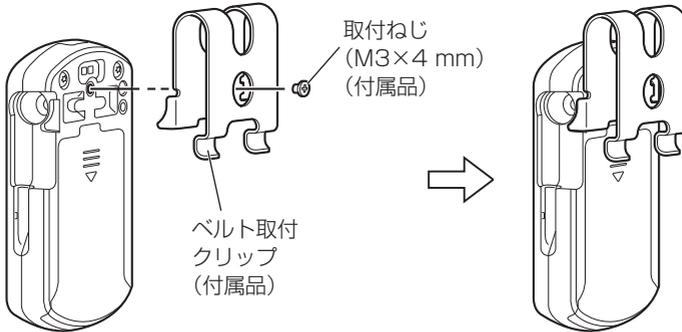
- 接話マイクロホンについては、接話マイクロホンの取扱説明書をお読みください。
- プラグの抜き挿しは、本機の電源が「切」の状態で行ってください。

■ ネットセットを使用する場合

準備

ベルト取付クリップを取り付ける

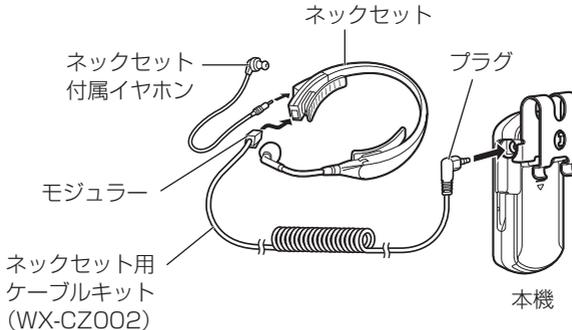
付属のベルト取付クリップを付属の取付ねじ（M3×4 mm）で取り付けます。



- ねじを強く締めすぎると、ねじが破損するおそれがあります。
推奨締付トルク：約0.49 N・m {5 kgf・cm}
- ベルト取付クリップの取り付けは、必ず付属のねじ（M3×4 mm）を使用してください。

ネットセットと本機を接続する

ネットセットのモジュラーコネクタにネットセット用ケーブルキット（WX-CZ002：別売品）のモジュラーコネクタを接続し、ネットセット用ケーブルキットのプラグを本機に接続します。



装着する



- イヤホンはネックセットに付属のものを使用してください。
- ネックセットに付属の接続ケーブルは本機に使用できません。ご注意ください。
- 接話マイクロホンに付属のトランシーバー接続ケーブルはネックセットとの接続に使用できません。ご注意ください。
- ネックセット用ケーブルとトランシーバー接続ケーブルはそれぞれのモジュラーコネクターのブッシングの色で識別できます。ネックセット用ケーブルキットは灰色、トランシーバー接続ケーブルは黒色です。



モジュラーコネクターブッシング：灰色

装着

本機に取り付けたベルト取付クリップをベルトなどに差し込みます。

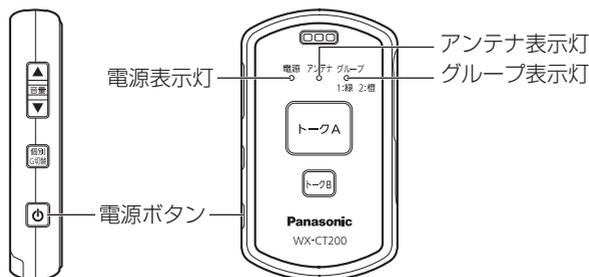
ネックセットを首に掛けネックセットのマイクロホンが口の前にくるように調節し、イヤホンを耳孔に挿入します。



- ネックセットについては、ネックセットの取扱説明書をお読みください。

通話する

[電源] ボタンを1秒以上押して、[電源] 表示灯と [アンテナ] 表示灯が点灯すれば、イヤホンから音声を聞くことが可能になり、[トークA] ボタンまたは [トークB] ボタンを押して通話が可能になります。

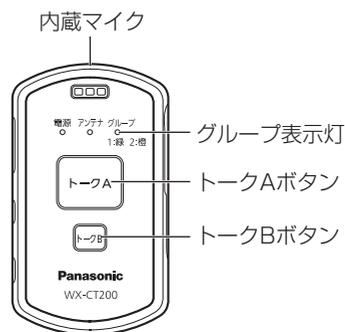


- [トークA] ボタン有効設定時は、[電源] 表示灯が点灯した後に、[アンテナ] 表示灯と [グループ] 表示灯が3回点滅（緑色）します。
- 本機からの音声の送信先は、センターユニットに接続する運用支援ソフトのグループ運用モードの設定で決まります。16ページのトークボタン機能割当一覧をお読みください。

■ 本機の内蔵マイクを使用して通話する場合（イヤホン接続時）

1 [トークA] ボタンまたは [トークB] ボタンを押し続け、「ピピッ」と鳴ったら内蔵マイクに口を近づけて話す（目安は1 cm程度）

- 押したままの状態でご話してください。
- 設定された送信先に音声が届きます。
- 「ブブブッ」と鳴ったときはやり直してください。
- 話すときは、内蔵マイクにできるだけ口元を近づけてください。
- 通話中は [グループ] 表示灯（緑色または橙色）が点滅します。



2 話し終わったら [トークA] ボタンまたは [トークB] ボタンを離す



- 通話開始時の「ピピッ」音を鳴らさないようにすることもできます。
- 通話開始時の通知音および通話終了時の通知音の設定は、運用支援ソフトが必要となります。運用支援ソフトの入手は販売店にお問い合わせください。

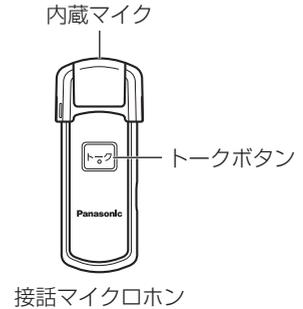
通話する

■ 接話マイクロホンを使用して通話する場合

接話マイクロホンの【トーク】ボタンを使用する

1 接話マイクロホンの【トーク】ボタンを押し続け、「ピピッ」と鳴ったら接話マイクロホンの内蔵マイクに向かって話す (目安は1 cm程度)

- 押しのままの状態でご話してください。
- 設定された送信先に音声が届きます。
- 「ブブブッ」と鳴ったときはやり直してください。
- 話すときは、内蔵マイクにできるだけ口元を近づけてください。
- 通話中は本機の【グループ】表示灯（緑色または橙色）が点滅します。



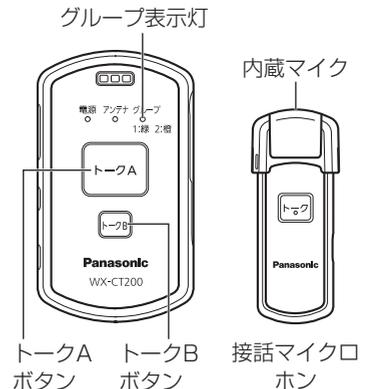
2 話し終わったら【トーク】ボタンを離す

本機の【トークA】ボタンまたは【トークB】ボタンを使用する

接話マイクロホン接続時の【トークA】ボタンは工場出荷設定で無効となっています。【トークA】ボタンを使用する場合、あらかじめ【トークA】ボタン有効／無効設定を「有効」にする必要があります。(31ページ)

1 本機の【トークA】ボタンまたは【トークB】ボタンを1秒以上押し、「ピピッ」と鳴ったら接話マイクロホンの内蔵マイクに向かって話す (目安は1 cm程度)

- 設定された送信先に音声が届きます。
- 「ブブブッ」と鳴ったときはやり直してください。
- 話すときは、内蔵マイクにできるだけ口元を近づけてください。
- 通話中は本機の【グループ】表示灯（緑色または橙色）が点滅します。



2 話し終わったら【トークA】ボタンまたは【トークB】ボタンをもう一度1秒以上押す

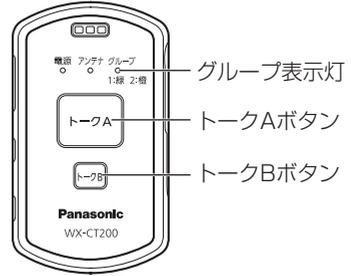


- 【トークB】ボタンを無効にすることはできません。
- 通話開始時の「ピピッ」音を鳴らさないようにすることもできます。
- 通話開始時の通知音および通話終了時の通知音の設定は、運用支援ソフトが必要となります。運用支援ソフトの入手は販売店にお問い合わせください。

■ ネックセットを使用して通話する場合

1 本機の【トークA】ボタンまたは【トークB】ボタンを1秒以上押し、「ピピッ」と鳴ったらネックセットのマイクに向かって話す（目安は1 cm程度）

- 設定された送信先に音声が届きます。
- 「ブブブッ」と鳴ったときはやり直してください。
- 話すときは、マイクにできるだけ口元を近づけてください。
- 通話中は本機の【グループ】表示灯（緑色または橙色）が点滅します。



2 話し終わったら【トークA】ボタンまたは【トークB】ボタンをもう一度1秒以上押す



- 通話開始時の「ピピッ」音を鳴らさないようにすることもできます。
- 通話開始時の通知音および通話終了時の通知音の設定は、運用支援ソフトが必要となります。運用支援ソフトの入手は販売店にお問い合わせください。

本機への接続	ボタン	トークA無効設定 (工場出荷設定)	トークA有効設定
イヤホン (付属品)	本機の 【トークA】ボタン	プレストーク	プレストーク
	本機の 【トークB】ボタン	プレストーク	プレストーク
接話マイクロホン	本機の 【トークA】ボタン	無効	トークロック
	本機の 【トークB】ボタン	トークロック	トークロック
	接話マイクの 【トーク】ボタン	プレストーク	プレストーク
ネックセット	本機の 【トークA】ボタン	トークロック	トークロック
	本機の 【トークB】ボタン	トークロック	トークロック

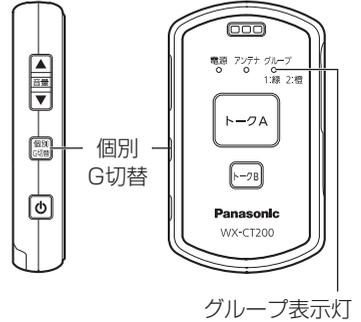
センターマイクロホンと個別通話をする

センターマイクロホンと一対一で通話します。

[トークA] ボタンまたは [トークB] ボタンは使用せず、[個別/G切替] ボタンを操作して個別通話を行います。

1 本機の [個別/G切替] ボタンを1秒以上押す

- 「ピピッ」と鳴り、本機の [グループ] 表示灯（緑色または橙色）が点滅したら、センターマイクロホンへの音声呼びかけが可能となります。センターマイクロホン側で個別通話の応答操作を行うと、一対一の双方向通話が可能となります。
- 「プブブッ」と鳴り、本機の [グループ] 表示灯（緑色または橙色）が点滅していない場合は、センターマイクロホンの呼び出しに失敗しています。他のポータブルトランシーバーが個別通話中の可能性があります。



2 本機または接話マイクロホンのマイクに向かって話す

- センターマイクロホンに対して音声で呼び掛けます。

3 本機の [個別/G切替] ボタンを再度1秒以上押し、個別通話を終了する

- 通話終了のピープ音が鳴り、本機の [グループ] 表示灯（緑色または橙色）が点灯に戻ります（独立グループまたは階層グループ運用の場合）。
- センターマイクロホン側で個別通話の終了操作を行っても、個別通話を終了できます。



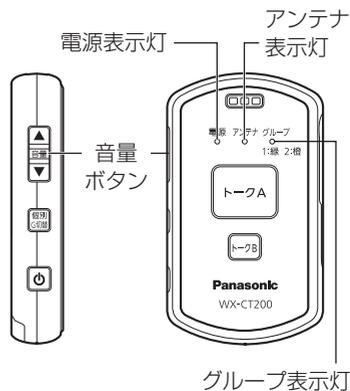
- 個別通話中は、個別通話の音声を聞き取りやすくするために、一斉通話とグループ通話の音声は少し小さくなります。
- グループなし運用の場合、個別通話を終了すると、グループ表示灯は消灯に戻ります。
- 通話開始時の「ピピッ」音を鳴らさないようにすることもできます。
- 通話開始時の通知音および通話終了時の通知音の設定は、運用支援ソフトが必要となります。運用支援ソフトの入手は販売店にお問い合わせください。

音量調節

本機はイヤホンから聞こえる音声信号の音量を調節できます。

1 音量ボタン [▲] / [▼] を押す

- 音量ボタンを押すか、押し続けます。
- 音量ボタン「▲」を押すと音量が上がります。
- 音量ボタン「▼」を押すと音量下がります。



基本操作



- 音量を上げ過ぎないでください。大きすぎる音は耳を痛めることがあります。適切な音量に調節してください。



- 本機の電源を切ると音量設定は初期状態に戻ります。
- 音量ボタンを押し続けると0.5秒ごとに音量が上がるまたは下がります。
- 音量調節で音量ボタンを押したときにイヤホンから確認音が聞こえます。音量アップ時は「ピッ」音、最大音量になった時は「ピピッ」音、音量ダウン時は「プッ」音、最小音量になった時は「ププッ」音が鳴ります。
- 音量ボタンを押すと設定音量を表示灯に表示します。表示は音量ボタンを押してから1秒間続きます。

音量レベル	表示灯		
	電源	アンテナ	グループ
12 (最大)	●点灯 (赤色)	●点灯 (赤色)	●点灯 (赤色)
11	●点灯 (赤色)	●点灯 (赤色)	●点灯 (赤色)
10	●点灯 (橙色)	●点灯 (橙色)	●点灯 (橙色)
9	●点灯 (橙色)	●点灯 (橙色)	●点灯 (橙色)
8	●点灯 (橙色)	●点灯 (橙色)	消灯
7 (初期状態)	●点灯 (橙色)	●点灯 (橙色)	消灯
6	●点灯 (緑色)	●点灯 (緑色)	消灯
5	●点灯 (緑色)	●点灯 (緑色)	消灯
4	●点灯 (緑色)	消灯	消灯
3	●点灯 (緑色)	消灯	消灯
2	○点滅 (緑色)	消灯	消灯
1 (最小)	○点滅 (緑色)	消灯	消灯

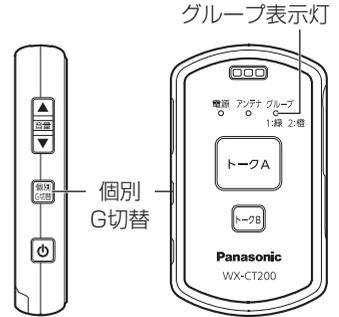
グループ切替

グループ運用モード（2～3ページ）をモード2（独立グループ）で運用している場合にグループを切り替えることができます。

1 【個別／G切替】 ボタンを2度連続で押す

ボタンを2度連続で押すたびにグループが切り替わります。

- 「ピッ」と鳴り、グループ切り替えが成功しました。グループは「グループ」表示灯の点灯色で区別できます。
緑色：グループ1
橙色：グループ2



- グループ運用モードがモード1、モード3 に設定されている場合は、グループ間移動操作は無効となります。
- グループ運用設定は、センターユニットに接続する運用支援ソフトで設定します。

トークAボタン有効／無効設定切替

本機に接話マイクロホンを接続している場合に、本機の〔トークA〕ボタンを使用する（有効）、使用しない（無効）を設定することができます。（工場出荷時設定は無効）本機に接話マイクロホンを接続してトークロックで使用する場合は、有効に設定してください。

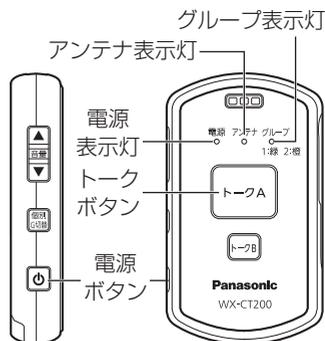
〔トークA〕ボタンを有効／無効設定を確認する

1 本機の電源が「切」になっていることを確認する

2 〔電源〕ボタンを1秒以上押して、電源を「入」する

有効設定時：〔アンテナ〕表示灯、〔グループ〕表示灯が3回点滅（緑色）

無効設定時：〔アンテナ〕表示灯、〔グループ〕表示灯は点滅しない



〔トークA〕ボタンを有効に設定する

〔トークA〕ボタンが無効に設定されていることを確認後に以下の操作をしてください。

1 本機の電源が「切」になっていることを確認する

2 〔トークA〕ボタンを押しながら、〔電源〕ボタンを1秒以上長押しして、〔電源〕表示灯が点灯することを確認する

- 有効設定に切り替えると、イヤホンから「ブー」音が聞こえ、〔アンテナ〕表示灯、〔グループ〕表示灯が3回点滅（緑色）します。

トークAボタン有効／無効設定切り替え

[トークA] ボタンを無効に設定する

[トークA] ボタンが有効に設定されていることを確認後に以下の操作をしてください。

1 本機の電源が「切」になっていることを確認する

2 [トークA] ボタンを押しながら、[電源] ボタンを1秒以上長押しして、[電源] 表示灯が点灯することを確認する

- 無効設定に切り替えると、イヤホンから「ピー」音が聞こえます。



- [アンテナ] 表示灯、[グループ] 表示灯は点滅しません。
- [トークA] ボタンの有効／無効の設定は、電源を切っても保持されます。
- 本機で一度も登録操作を行っていない場合は、[トークA] ボタンの有効／無効の設定を変更することができません。センターユニットに登録した後に設定変更を行ってください。

充電電池の充電

1 本機を充電器に挿入する

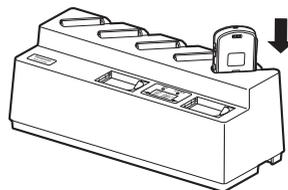
本機を充電器にセットすると、本機の「電源」表示灯が充電状態を以下のように表示します。

点灯：充電中

消灯：充電完了、充電器に正しくセットされていない、または、充電電池が装着されていない

点滅：充電エラー

- 内部に熱がこもり、充電電池温度が許容範囲を超えた可能性があります。



重要

- 充電には専用の充電器をご使用ください。充電器の取扱説明書もあわせてお読みください。
- 本機の電源が「入」の状態では充電器にセットしたとき、本機の電源が切れて充電を開始します。



- 充電時間は最長約4時間かかりますが、使用状況によって異なります。
- 使用温度範囲外で充電すると、充電時間が著しく長くなる場合があります。また、使用温度範囲内でも、本機の温度が高い場合や低い場合には充電時間が長くなる場合があります。
- 充電中は本機、充電器が温かくなりますが、異常ではありません。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で現象を確かめてください。

これらの対策をしても直らないときやわからないとき、この表以外の現象が起きたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象	原因・対策	参照ページ
電源が入らない	● 充電が入っていますか？ ➔ 充電機を入れてください。	17
	● 充電機が消耗していませんか？ ➔ 充電してください。 充電しても電源が入らない場合は、新しい充電機に交換してください。	17、33
通話できない （[アンテナ] 表示灯が 消灯）	● 本機が圏外です。 ➔ 圏内に移動してください。	13
	● センターユニットの電源が入っていますか？ ➔ センターユニットの電源を確認してください。	—
	● センターユニットに登録しましたか？ ➔ 本機をセンターユニットに登録してください。	WX-CX200 取扱説明書
イヤホンの音が小さい	● 本機の音量が小さくなっていませんか？ ➔ 音量を上げてください。	29
イヤホンの音が聞こえない	● イヤホンが本機、接話マイクロホンまたはネックセットから外れていませんか？ ➔ イヤホンとの接続を確認してください。	18~24
	● 本機に付属のイヤホンまたはイヤホンキット（WX-CZ001：別売品）以外のイヤホンを使用していませんか？ ➔ 本機に付属のイヤホンまたはイヤホンキット（WX-CZ001：別売品）を接続してください。	19
	● 本機をセンターユニットに登録しましたか？ ➔ 本機をセンターユニットに登録してください。	WX-CX200 取扱説明書
充電できない （[電源] 表示灯が消灯 している）	● 充電機が入っていますか？ ➔ 充電機を入れてください。	17
	● 充電器に正しくセットしていますか？ ➔ 充電器に正しくセットしてください。	33
	● 専用の充電地がセットされていますか？ ➔ 専用の充電機（WX-SB100）を使用してください。	17

故障かな!?

現象	原因・対策	参照ページ
充電できない ([電源] 表示灯が点灯するが数分後に消灯する)	● 充電完了後すぐに充電していませんか？ ➡ すでに充電電池は満充電になっています。本機を充電器から外して使用してください。	33
充電できない ([電源] 表示灯が点滅している)	● 充電電池が極端に熱くなっていませんか？ ➡ 本機を充電器から外し、充電電池を取り出して販売店にご相談ください。	33
満充電しても使用時間が短い	● 長年使用することなどで劣化した充電電池を入れていませんか？ ➡ 劣化した充電電池は動作時間が短くなる、電源が入らないなどの症状があらわれます。新しい充電電池に交換してください。	33

ビープ音

本機では下記の内容について、ビープ音で動作状態をお知らせします。

分類	内容		ビープ音
通知	通話開始		ピピッ
通知	通話終了		ブブッ
警告	通話開始失敗		ブブブブッ
警告	異常切断		ブブブブッ
警告	センターユニットやセンターマイクロホンからの通話解除		ブブブブッ
通知	音量操作	音量アップ時	ピッ
		音量ダウン時	ブッ
		音量変更不可（上限到達時）	ピピッ
		音量変更不可（下限到達時）	ブブッ
通知	グループ間移動		ピッ
警告	グループ間移動失敗		ブブブブッ
通知	ポータブルトランシーバー登録完了		ピッ
警告	ポータブルトランシーバー登録失敗		ブブブブッ
通知	[トークA] ボタン有効設定に変更時		ブー
通知	[トークA] ボタン無効設定に変更時		ピー
警告	圏外付近		ピブッ
警告	圏外		ブブブブッ
警告	電池残量なし		ブブブッ

仕様

無線	使用周波数	1895.616 MHz～1902.528 MHz
	アンテナ	内蔵アンテナ
使用マイク	内蔵	双指向性エレクトレット・コンデンサーマイクロホン
周波数特性		100 Hz ～ 8 kHz
イヤホン/ 接話マイクロホン		4極、φ3.5 mmジャック
使用電池		充電電池パック (WX-SB100)
動作時間 (電池寿命)		約15時間 (送話：受話：待機 = 1：1：8 の比率)
表示 (インジケータ)		電源、アンテナ、グループ
使用温度範囲		5℃～35℃
寸法		48 mm (幅) × 84 mm (高さ) × 16 mm (奥行き) (突起部、付属品除く)
質量		約56 g (充電電池パック含む、クリップ、ストラップ、 イヤホン等付属品除く)
仕上げ	本体	ASA樹脂 黒色
	前面パネル	PC樹脂 透明

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは「故障かな!?(34~35ページ)でご確認のあと、電源を切り、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名	ポータブルトランシーバー
●品番	WX-CT200
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

ただし、以下の部品については消耗品ですので、保証期間内であっても「有料」とさせていただきます。

- ・ストラップ
- ・ベルト取付クリップ
- ・ウインドスクリーン
- ・マグネットクリップ
- ・イヤホン
- ・ソフトケース
- ・マグネットクリップホルダー
- ・イヤチップ (大/中/小)

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

■ 使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■ その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バナハ ヨイフ 受付：9時～17時30分
(土・日・祝祭日は受付のみ)
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは

https://biz.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact

ご使用の回線(IP電話やひかり電話など)によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック コネクト株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号

© Panasonic Connect Co., Ltd. 2022

PGQX2162WA

FV0717-3042

Printed in Vietnam